



### 防災気象講演会

(6月26日、中央公民館)

本市と仙台管区気象台が主催した講演会には、市内外から約400名の皆さんが参加。迫り来る宮城県沖地震に備えて、真剣な表情で講演者の話に耳を傾けていました。



▲たくさんの人が参加した講演会

### 白石市青少年健全育成・非行防止推進大会

(7月7日、中央公民館)

280人が参加した今回の大会。宮城教育大学副学長の阿部芳吉氏による講演が行われたほか、市民一人ひとりが青少年の健全育成に励むといった内容の大会宣言が採択されました。



▲巧みな話術で会場全体を引き込んだ阿部氏

### 東中学校創立20周年記念式典などを開催

(7月8日、東中学校体育館)

式典に先立ち、記念の植樹が行われ、オオヤマザクラの植樹が行われました。数年後には、このサクラの花が咲き乱れる中で入学式が行われることでしょう。



▲標柱を立てる2年生の代表の皆さん

### 性別・年代を超えて競技に熱中

#### 第5回市民シャフルボード大会

6月17日、中央公民館で第5回シャフルボード大会が開催されました。シャフルボードは、キューと呼ばれる細長い棒を使って得点エリアへ円盤を押し出し、その合計得点を競う競技で、子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるニュースポーツとして人気があります。

この日は11チームが参加して楽しくプレー。熱戦の末に高橋・大浦ペアが優勝、佐藤・高橋ペアが準優勝しました。



▲「負けないぞ!」と、真剣なプレー

### ヒマラヤの“涼”をお届けします

#### 地元出身者による作品展を開催

5月30日～6月30日の1カ月間、すまいるひろばに隣接するギャラリー喫茶「蔵楽」で白石出身の切り絵作家、三島木正子さんの写真展などが開催されました。



▲写真展のほか、奄美大島の手作り小物展も開催

三島木さんは今回、ヒマラヤやチベットなどの高地を訪れた際に撮影した、青いケシなどの写真20点を展示したほか、切り絵作品4点を展示。

期間中、地元出身者の作品を一目見ようとたくさんの人が会場を訪れ、美しい写真に見入っていました。

### 人と蛍の共存を目指して

#### 尾籠地区でホタルまつりを開催

6月23日・24日の2日間、福岡蔵本の尾籠地区で「白石薬師堂ホタルの里を守る会」と薬師の湯ひまわりセンターが共催で「ホタルまつり」を開催しました。開会式では津軽三味線やよさこい踊りなどが披露され、たくさんの人でにぎわいました。



▲幻想的な光を放つ花灯路

また、道沿いにはサロン・サンサンの皆さんが製作した「花灯路」と呼ばれる灯ろうが飾られ、その淡い光が蛍を一目見ようと訪れた人々を優しく包み込んでいました。

### 地元の魅力を再発見!

#### 市内施設見学・体験ツアーを開催

市内の公共施設やイベント施設をもっと知ってもらい、利用していただくこと、市民の皆さんや市内に通勤・通学されている方を対象にした見学・体験ツアーを、6月にテーマ別に3回に分けて実施しました。



▲材木岩公園で楽しく遊ぶ参加者たち

6月20日には子育てをテーマに、小原地区の材木岩公園やスパッシュランドパークを見学するツアーを実施。22組の親子が参加し、雄大な自然を背景に水とふれあうなど、楽しい時間を過ごしました。

### 東北新幹線開業25周年!!

#### 白石蔵王駅で記念イベントを開催

東北新幹線が開業してちょうど25年目を迎えた6月23日、白石蔵王駅で記念イベントが開催されました。



▲ひかり幼稚園によるくす玉割り

地元の鷹巣神楽保存会の皆さんによる神楽太鼓の演奏から始まった記念イベントでは、ひかり幼稚園の園児約80名の合唱、白石女子高等学校吹奏楽部の皆さんによるミニコンサートが行われました。

思いがけないイベントに、多くの乗降客も足を止めて、カメラのシャッターを切っていました。

### ゆったりとした夏の夜を体験!!

#### 壽丸屋敷で「100万人のキャンドルナイト」

夏至の夜に電気を消してゆったりとした時間を過ごすとう開催されている、「100万人のキャンドルナイト」の一環として、6月22日、壽丸屋敷で(社)白石青年会議所の主催で昔話を聞く催しが開催され、親子連れ約70人が参加しました。

壽丸屋敷の大広間には、皿に載せた100個のろうそくと、白石和紙を利用したスタンドの淡い光の中で、「白石民話の会」のメンバーが語る昔話に聞き入っていました。



▲淡い光の中、昔話に聞き入る参加者たち

## 風間市長の「虫のサンシャキヤキ」 「虫」

天然の蛍が飛んでいるところを見ました。暗闇の中、二匹の蛍が優雅にそして自由に飛び回っていました。林の奥にはその二匹を迎え待つつかのように、一点二点と光を放っている蛍がいました。気温が低かったせいか、その数匹しか見ることができませんでしたが、しばらくその光景に見入ってしまいました。自然が織りなす世界に感動と癒やしを体感しました。飛んでいる二匹。仲良く自由に楽しそうに光を放ちながら遊泳しているように見え、夫婦なのかな? 親子なのかな? はたまた家に帰る途中なのかな、散歩の最中なのかな? などと勝手に自分の頭の中で想像しながら見ていました。暗闇の一点の光明に見え、大いなる癒やしのひとときを過ごしました。もつと見ていたかったのですが、肌寒

さと小雨と夜の遅い時間だったのでその場所を後にしましたが、本当にすてきで素晴らしい自然の光景でした。後で知ったのですが、その場所は一時、以前より蛍の数が激減したそうです。そこで自分たちが住む地域が汚れかけていることを知り、そこに住む住民自らが立ち上がり、河川の草刈りやごみ拾いなどの清掃を行い、さらに道路の側道に花の植栽活動などを行ったそうです。そうした行動によってポイントがなくなり、自分たちの「か

わ」と「みち」という意識が高まってきたとき、地域全体の環境までも改善されたようです。その結果、虫がまた以前のように戻ってきたのです。住民の力を結集させたDさんの行動力と、住民主体の「ご近所

熱帯を中心に世界に約2千種が分布し、多くは腹端に発光器を持ち、夜間、青白い光を点滅します。日本には約50種弱、そのうち発光するのは、ゲンジボタル・ヘイケボタルなどの数種類に限られているのだとか。

話が変わりますが、パーセント記号の由来を「存じですか?」  
【7月号の答え】  
何かを掻き集めるとい意味で、「掻き入れ時」だと思ふ人が多いと思いますが、実は「書き入れ時」なのです。  
運やお金を掻き入れるのではなく、帳面に書き入れるとき、ということなのです。忙しいと、あれこれと帳簿に書き込まなければならぬものも増えます。そのため、忙しい時期を「書き入れ時」というようになりました。